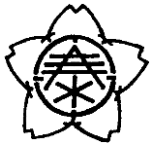


さいたま市立泰平小学校



学校だより

児童数：600名

第603号 令和7年9月30日 発行

〒331-0801 さいたま市北区今羽町628

TEL 048-651-5637

FAX 048-651-4831

・ホームページ <http://taihei-e.saitama-city.ed.jp/>

・Eメール

学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに



小学校体育 ～たくましく 心ゆたかに～

校長 佐藤 信孝

世界陸上競技選手権大会が9月13日（土）から21日（日）の9日間の日程で行われました。日本での開催は2007年の大阪大会から16年ぶり、東京大会としては36年ぶりの開催で、世界陸上を3回開催するのは国として最多だそうです。現地国立競技場に行かれた方もいらっしゃるかもしれません。

陸上競技は、「走る・跳ぶ・投げる」の本的な身体能力を競う種目から成り立っています（「歩く」を競う競歩もありますね）。他のスポーツ競技に比べ、「単純」かもしれません。それゆえ、一瞬の動きをそれぞれの選手の持っている体格や筋力に合わせて、最善のものにし、再現し続けることは大変難しいことです。選手は、その「一瞬」のため、地道なトレーニングを何百、何千、何万回も、思考を重ね繰り返し、他の誘惑を断ち切り、幾たびの悔しさや挫折を乗り越えてきた人たちです。身体や動きを極限まで高めた「超人」たちが競い合う姿は本当に美しかった。

アスリートとは無縁の生活を送っている私ですが、連日行われたアスリートたちの真剣勝負に感動し、考えさせられ、日本という国の多様性を感じました。また、改めて「競技」することの意味や残酷さを感じました。競い合うということは、順位に差が出ます。栄冠を勝ち取り感情を爆発させる勝者。その陰には、敗者が存在します。日本の選手たちはほとんどが「敗者」でした。期待に応えられなかったと涙する選手。その中には昨年度泰平小学校にも来てくださったやり投げの北口選手もいました。外にも、TVカメラに向かい、謝罪する選手。ゴール手前で他選手に接触し順位を落としたながらも「魅力の一つ」と気丈にふるまう選手。彼ら自身や彼らを支えた人々のこれまでの労力とかけた時間、思いの分だけ、様々な感情が襲ったことでしょう。

小学校体育の目標は「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成することを（1）運動の行い方を理解し、基本的な動きや技能を身に付けたり、（2）自分の課題を見付け、その解決に向けて思考・判断し、他者に伝えたり、（3）運動に親しみ、健康の保持増進を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養ったりしながら目指しています。

世界陸上の中でも、競技を終えた選手同士が互いを称え合う姿が多くありました。特に、北口選手が行っているやり投げを含む投てき競技や跳躍競技の選手たちが国を超え、互いを支え合っている様子は、個人種目でありながら、一つのチームのようでした。競技場内、TV画面の向こうの人たちの期待と重圧の中、他選手の結果を待つ北口選手に手をたたきながら笑顔で話しかけるセルビアの選手。それにこたえる北口選手。体育の目標の中の（3）は運動の楽しさや喜びを味わうとともに、公正に取り組む、互いに協力する、仲間の考えや取り組みを認めるなどの態度を育むことが求められています。北口選手、セルビアのビラゴシュ選手に小学校体育が目指す目標を形として見る思いでした。

一方、9月30日は「明日（あす）も進むいのちの日」です。2011年にさいたま市内で駅伝練習中に起こった事故を繰り返さぬよう、さいたま市が制定しました。体育授業を含め、安心安全な教育活動・学校の安全体制の確立に取り組み、児童が安全に留意できる態度を育ててまいります。

＊

令和7年度も折り返しにかかります。ここまで、大きな事故なく教育活動を行っております。ありがとうございます。10月は交通事故が多発する月と言われています。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、児童の安全な登下校、下校後の交通安全への声かけ、見守りを引き続きお願いします。